

高知県におけるブラインドクラ ィングの経緯とこれから

高知県身体障害者連合会

金平景介

1.はじめに

高知県では、視覚障害者のフリークライミングが盛んに行われている。現在では、関東地域に次ぐ視覚障害のクライマー輩出県となりつつある。

「独立行政法人福祉医療機構 平成21年度長寿・子育て・障害者基金助成事業」の助成を受け、NPO法人モンキーマジックや高知県山岳連盟、高知県障害者スポーツセンターなどの協力を得て本格的に始まった。

現在では、当事者が中心となり毎週サークル活動を行い、昨年度には大会（第1回よさこいコンペ）を開催するまでに至った。

2.活動の経過①

日時	内容	場所
平成20年 10月20日～21日	NPO法人モンキーマジック 小林氏 講演・視察※1	高知県
11月23～24日	視覚障害者対象の体験スクール※1	高知県
平成21年 3月27～28日	指導者養成研修会※1	高知県
5月23～24日	モンキーマジック主催の クライミング教室視察※2	広島県
6月19～20日	指導者養成研修会※2	高知県
7月20日	視覚障害者対象の体験スクール※2	高知県

※1:NPO法人 モンキーマジック主催

※2:独立行政法人福祉医療機構 平成21年度長寿・子育て・障害者基金助成事業

※3:ポレポレクライミング部主催

2.活動の経過②

日時	内容	場所
平成21年 9月26～27日	第18回視覚障害リハビリテーション 研究発表大会 仮設ウォールにて体験会	高知県
10月16日	モンキーマジック主催の クライミング教室視察※2	神奈川県
10月17日	視覚障害クライミング選手権出場※2	東京都
11月15日	指導者養成研修会※2	高知県
11月28日	モンキーマジック主催の クライミング教室視察※2	神奈川県
11月29日	コバトンカップ(大会)出場※2	埼玉県

※1:NPO法人 モンキーマジック主催

※2:独立行政法人福祉医療機構 平成21年度長寿・子育て・障害者基金助成事業

※3:ポレポレクライミング部主催

2.活動の経過③

日時	内容	場所
平成22年 1月31日	指導者養成研修会※2	高知県
2月20日	指導者養成研修会※2	高知県
7月 8月	高知県初のクライミングジム開店 障害者スポーツセンターにウォール新設 毎週の練習開始※3	高知県
12月4～5日	第1回視覚障害者クライミング 世界選手権出場会※3	千葉県
平成23年 10月22～23日	第3回視覚障害者クライミング 日本選手権出場※3	神奈川県

※1:NPO法人 モンキーマジック主催

※2:独立行政法人福祉医療機構 平成21年度長寿・子育て・障害者基金助成事業

※3:ポレポレクライミング部主催

2.活動の経過④

日時	内容	場所
平成24年 1月24日	第1回よさこいコンペ開催※3 (ポレポレクライミング部主催の大会) 高知県 よさこいピック高知記念基金 助成	高知県
5月13日	ルートクライミング ビレイ(ロープ確保)練習会※3	高知県
6月10日	障害者スポーツセンター主催 クライミング教室	高知県
10月(予定)	第3回視覚障害者クライミング 世界選手権 出場決定(2名)※3	フランス

※1:NPO法人 モンキーマジック主催

※2:独立行政法人福祉医療機構 平成21年度長寿・子育て・障害者基金助成事業

※3:ポレポレクライミング部の活動

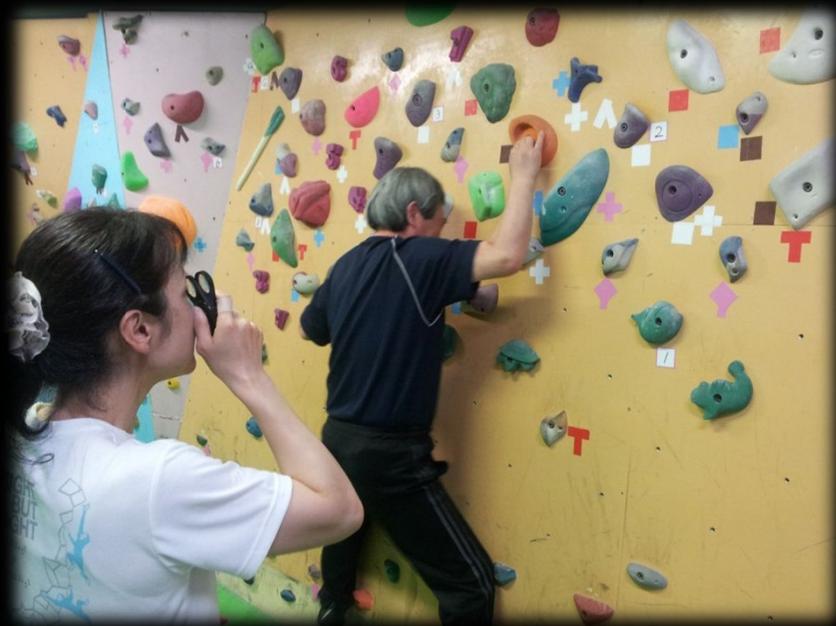
平成22年 7月・8月

- ・高知県初のクライミングジム開店
- ・高知県立障害者スポーツセンターにウォール新設
⇒毎週の練習開始

サークルの様子

晴眼者やロービジョンの方が補助具を使って、全盲の方の指示している

サークルメンバー以外の上級者が体の動かし方や足の置き方などを実際に体を触りながら指導している



平成24年 1月24日

第1回よさこいコンペ開催
ポレポレクライミング部主催の大会
高知県よさこいピック高知記念
基金助成

参加者

- ・視覚障害者9名
- ・晴眼者6名

競技方法

- ・2ルートの合計到達点
- ・晴眼者は、シミュレーションゴーグル・アイマスク着用

結果

視覚障害者が上位を独占



3. アンケート結果①

定期的に参加している方へのアンケート(N=9)

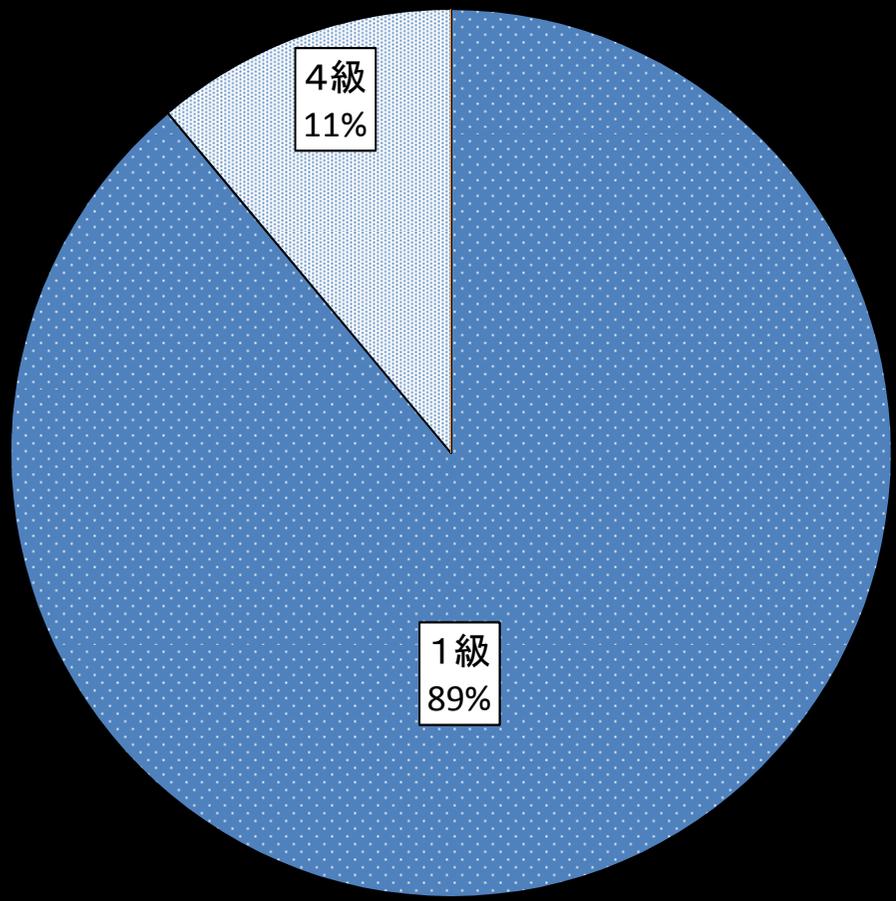


図1.手帳の等級

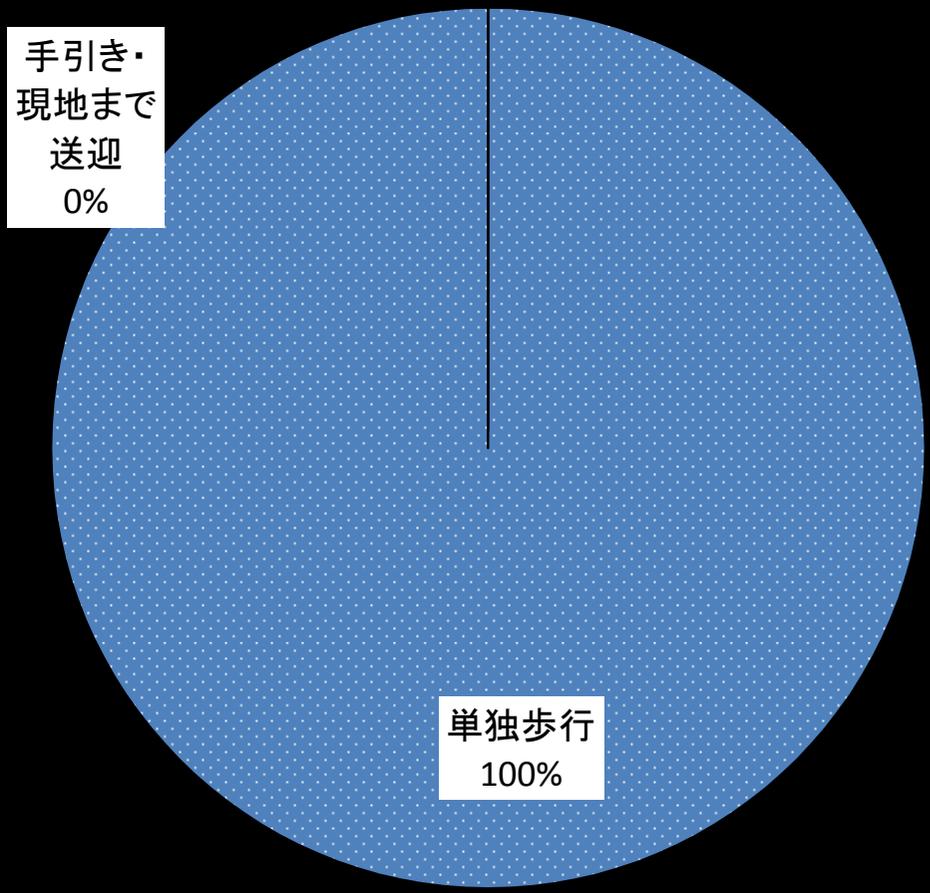


図2.交通手段

3. アンケート結果②

定期的に参加している方へのアンケート(N=9)

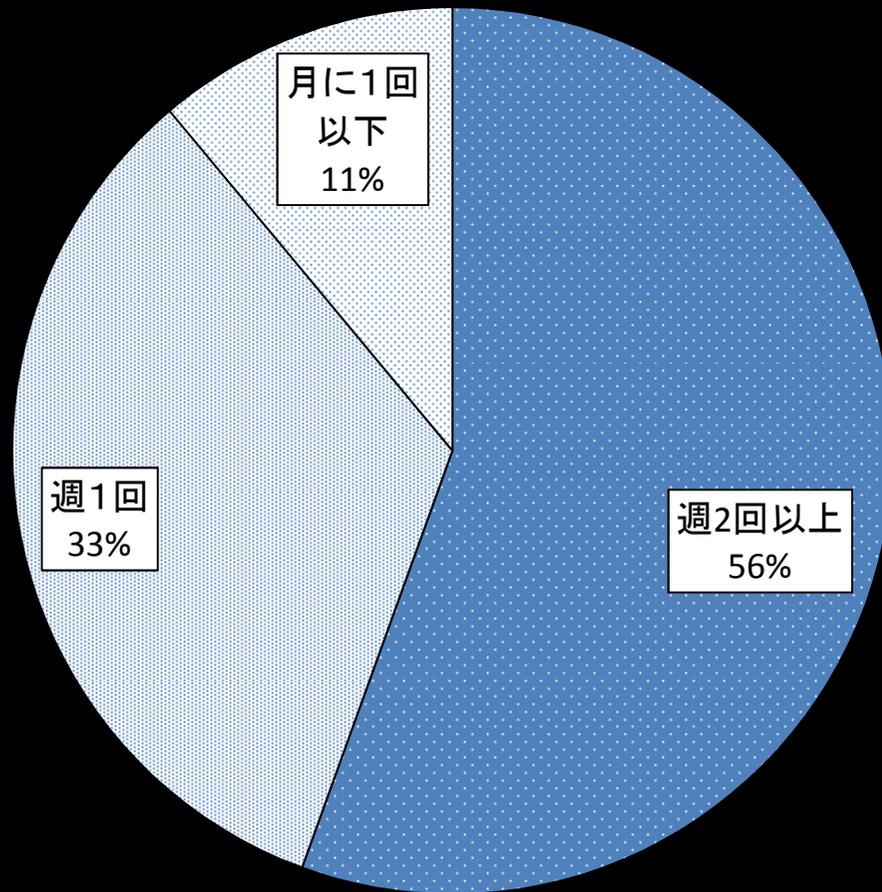


図3.クライミングの頻度

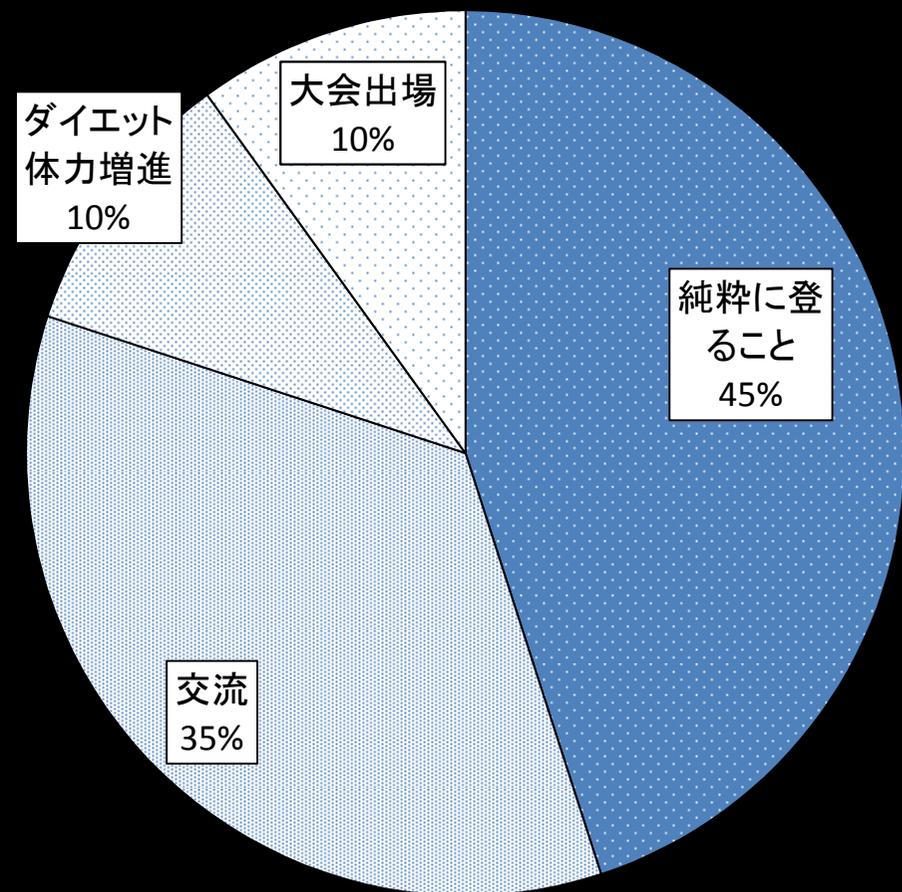


図4. 継続している理由(複数回答)

3. アンケート結果③

定期的に参加している方へのアンケート(記述式)

- ・視覚障害者以外のクライマーとの交流をしたい
 - ⇒ジム内での手引きの様子が見られる
 - ⇒大会や練習日のメンバー以外(晴眼者)の参加増
- ・もっとうまくなりたい、トップロープでの練習をしたい
 - ⇒メンバー以外(上級者)からの指導の様子が見られる
 - ⇒トップロープでの講習会を開始
- ・身近で目標となるような大会にでたい
 - ⇒高知県独自の大会を開催

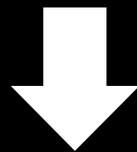
※アンケートの回答内容

⇒現在の様子と今後の展望

3. アンケート結果④

定期的に参加していない方へのアンケート(記述式)

- ・時間がない(他にしている趣味がある等)
- ・他の趣味の方がおもしろい
- ・定期的にはしたいと思わないが、たまにだったら体験程度には続けていきたい
- ・定期に実施しているのでいつでも体験できる
- ・私には向いていない (怖い・腰が痛くなった)



アクセス手段や金銭的な面という回答はなかった。

4.まとめ

- ・外出がすくなかった方の外出機会となっている。
(歩行訓練の開始や公共交通機関の利用増)
- ・多くの視覚障害者に体験してもらうためには、これからも継続して、サークル活動や大会を主催していく必要がある。
- ・サークル活動を継続していく中で、視覚障害への理解や啓発が進んできている。
- ・サークル活動を継続、発展させるために、様々な社会資源(助成金、障害者スポーツセンター、クライミング上級者など)を活用している。